

大教会の諸活動

▼月定例行事▲

4日	岡心勇隊佐賀地区
8日	岡心勇隊奈良中和
9日	岡心勇隊五條橋本(あやの台)
13日	岡心勇隊八幡地区
15日	大教会ひのきしん(道弘)
18日	岡心勇隊大阪地区
21日	大教会ひのきしん(相嘉)
22日	祭典準備ひのきしん
	大教会ひのきしん
	(表野・飛鳥川・岡秋)
	大教会役員会議
22~23日	婦人会伏せ込みひのきしん
23日	大教会月次祭
23~26日	婦人会詰所ひのきしん
24日	大教会ひのきしん(東松浦・西北)
	役員直属教会長連絡会議
25日	詰所ひのきしん日
26日	本部月次祭
30日	岡心勇隊姪浜会場
	第一日曜日 おぢば伏せ込み団参(午前中)

※新型コロナウイルスの影響から、行事予定が中止、または変更される可能性があります。

教務報

- ◆教会長任命講習会受講者(9月10日~14日)
表田 上田 耕平
- ◆教養掛(10月)
警固 田原 太郎
- ◆おさづけの理拝戴願
(8月16日~9月15日詰所受付分)
表田 上田 堅心
表田 上田 菜摘

- ◆別席願(8月16日~9月15日詰所受付分)
西北 吉田 美貴
岡村 丸谷 一輝
西北 森山 怜音
福門 村田 直人
- 【お詫びと訂正】
先月号本欄「お運び(教務報)」の相嘉分教会臨時祭典願は立教184年11月28日の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

創立記念祭に向けて おつとめ勉強会開催



相嘉分教会

相嘉分教会(安井一夫会長)では9月11、12の両日、和歌山県橋本市の教会で「おつとめ練習」を実施。約30人が参加した。今回の「おつとめ練習」は、11月に控える「相嘉分教会創立120周年記念祭」に向けて実施されたもの。大教会長様をはじめ、吉田陽子岡支部長、森井道典大教会役員のほか、婦人会岡支部委員らが講師として出し、熱心なおつとめ練習が実施された。相嘉分教会では、「おてふり」「女鳴物」「打楽」「合同練習」とテーマを別け、合計6会の練習日を予定。11月28日の記念祭に向けて、おつとめ練習を進める。

岡大教会連絡報

立教一八四四年 十月号(九月二十三日発行)

岡大教会ホームページ



oka.or.jp
発行所 高市郡明日香村岡 395
〒634-0111
天理教岡大教会
電話(0744)54-2002
FAX(0744)54-3889
E-mail info@oka.or.jp
184.9.23 / 035

POINT

今月のメッセージ 「いさむ」



「いさむ」という言葉は、天理教ではよく使われる言葉です。「明るい・陽気な・前向きな・積極的な・元気のある・生き生きとした」などのイメージで使われていると思います。

平凡社の『常用字解(白川静著)』には、「(井戸水のように)内部からわき出て、一気に事を成そうとする力を勇」とい、『いさましい、つよい』の意味に用いる」とあります。ですから、「いさむ」は自分の心の底からわき出てくるものです。きっと地下水のように誰でも持っているものが、何かのきっかけであふれ出すのでしょう。

かみがでてなにかいさいをとくならば

せかい一れつ心いさむる (おふでさき1号7番)

親神様がこの世の表に現れて、人間世界創造の目的は陽気ぐらしであること、そのために十全のご守護で常に護られていること、それにまつわるすべてを詳しく説いて聞かせたら、世界中の人間の心の底から喜びと感動があふれ出て、尽きることはない。

いつも勇んだ心で生きるためには、教祖の教えをしっかりと聴かせてもらうことが必要です。特に教えの台である「かしもの・かりもの」は、常に実感出来るぐらいに心に治めさせて頂きたいものです。(吉田)



心を込めて お詫びとお礼のおつとめ

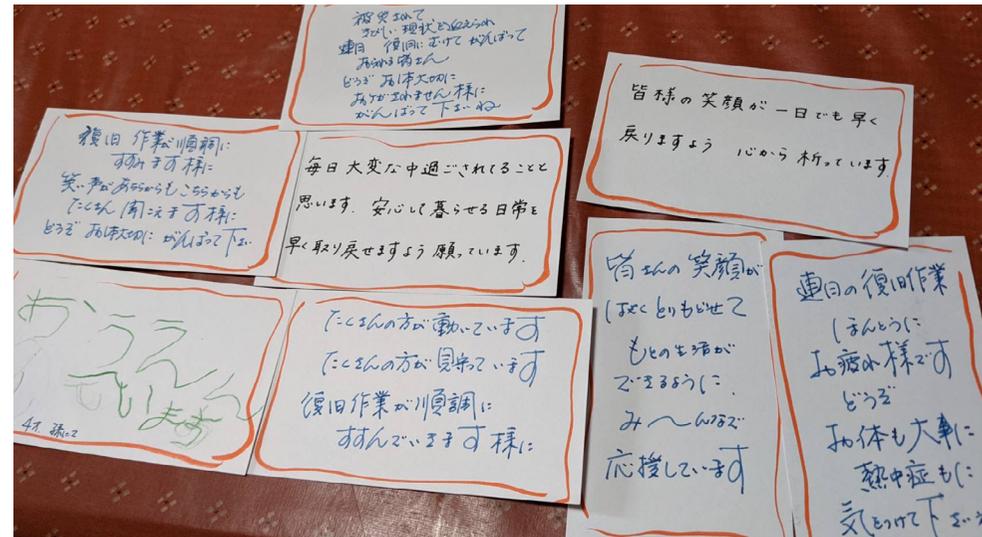
大教会では8月24日、教会統合によりご本部へ「統合お預け願」を願い出た19カ所の御目標様に対し、お詫びとお礼のおつとめを実施。当該教会関係者を含む50人が参拝し、一

手一つにおつとめを勤めた。

このおつとめは、今回の教会統合の動きの中で「対象の教会は、様々な理由から教会長やようばく・信者が不在となり、長期にわたっておつとめを勤めることが困難になっていた。ご本部への『お預け』の願い出に際し、これまでのお詫びとお礼の気持ちを込めたおつとめを勤めさせていただいた」との大教会長様の思いから執行された。

当日は、午前10時に関係者らがおつとめ衣姿で参拝場に参集し、大教会長様を祭主に祭儀を執行。その後、座りつとめと十二下りのてをどりが勤められた。

おつとめ後のあいさつで、大教会長様は「後々に(教会統合を)こんな事があったでは済ませない覚悟を、いまここで定めていただきたい。そしてこの先、無担任教会、動きが取れない教会になっていかないように、心を込めた真実の伏せ込み、丹精をお願いしたい」と話した。



佐賀県豪雨への支援の輪は大教会内でも広がり、届けられた物資（写真左）の中には心温まるメッセージも添えられていた（写真右）。

9月16日には女子青年担当者講習会が開かれた。



岡館の修築作業には合計11名が参加し、参拝場の畳をめくって床下を補強（写真左、中央）。また、腐食した土台と柱を取り除き、建物の歪みを修正する大掛かりな作業を実施した（写真右）。



節を通して広がる「一」手の和、

教友の難渋に差し伸べる真実の心は、大きな波紋となり広がっていく

8月11日から21日頃にかけて日本列島周辺に停滞した前線の影響から、西日本から東日本の広い範囲が大雨に。佐賀県では六角川の氾濫により、上橋分教会や天神免分教会が床上浸水被害に遭ったほか、多数の関係者が豪雨の影響に悩まされた。そんな中、東鹿島分教会の早田茂会長の呼び掛けから、大教会でも支援の輪が広がり、タオルや長期保存が可能なレトルト食品、カップ麺などの支援物資が寄せられた。これらは、早田会長が携わるボランティアグループが窓口となって武雄市内の被災者へ届けられた。そのほか、今回の教会統合により岡大教会の出張所として新たな歩みを進めることになった旧岡館分教会（北海道函館市）では、長年にわたる冷害と雪の影響による損傷を受けた神殿と参拝場の大規模な修築を実施。大教会より合計11名が作業に参加したほか、現地の支部長や災救隊長の支援を受けながら、建物の歪みを修正。沈んだ床を元に戻すため、新たに柱や土台を設置し、雪解け水の浸水を防ぐ加工も施した。